

内水試 News !

H22.3.19

かわら版 Contents

生物をはぐくむ漁場環境
の保全をめざして

ミャンマーからの留学生らが湖岸帯の調査で来場しました



平成22年3月16日、東京海洋大学大学院のミャンマーからの留学生ミョ・ミンテン (Myo Minn Thein) 氏とトー・トーアング (Toe Toe Aung) さんが同大学院松林由里子博士とともに当場を訪れました。ミョさんらは母国の大学でも波浪や河口域の堆砂のメカニズムに関する研究を行っており、今回日本第二位の面積を有する霞ヶ浦における湖岸域の船溜りや樋門などの人工構造物と水際線形状との関連を調査するために来場しました。

当日は当該研究員とともに霞ヶ浦の湖岸線を精力的に踏査し、魚類のための環境保全の観点からも湖岸帯の形状について調査を行いました。あわせて鹿島灘でも砂浜海岸での形状変化の状況について調査を行い、貝類資源等の生物分布との関連について当該職員の説明を受けました。なお、ミャンマーでも淡水エビやコイは食用資源として利用されていることから、霞ヶ浦のテナガエビやコイの生態について興味深い様子でした。

漁場環境の保全の上からも、彼らの研究が進展することを期待しています。

お問い合わせ 茨城県内水面水産試験場(増殖部) TEL 0299-55-0324